

名古屋アイスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS

～ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world ～
2015-16 年度国際ロータリー会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

例会日:毎週水曜日 13:00～14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創立:2013年6月5日

会長:安井 忠 「楽しく・深く理解するアイリス」



- 斉唱 それでこそロータリー
- 司会 深見 和久 会員
- 出席者報告 出席者数 26 名 / 会員数 37 名
出席率 70.3%
前々回(第 122 回)修正出席率は 91.66%(34/36)

■ ビジター・ゲスト

名誉会員 豊島 徳三様

名誉会員 名古屋栄 RC 八神 基 様

■ ニコボックス報告

名誉会員 豊島 徳三様

卓話にお招き有難うございます。

名誉会員 名古屋栄 RC 八神 基 様

今月 2 月 23 日はロータリー創立記念日。111 年前です。

安井 忠 会長

豊島徳三パストガバナーをお迎えして。本日は格調高い卓話を頂きます。

荒山 久美 直前会長

豊島パストガバナー、本日は卓話お願いします。

菊池 富士子 副幹事

豊島パストガバナー、八神名誉会員様、ようこそアイリス RC へ

安井 孝充 会長エレクト

豊島パストガバナー、八神名誉会員 本日は寒い中アイリス RC にお越しくださり有難うございます。感謝。

須賀 祐介 会員

訳もなくニコボックスな気分でした。今度「藤森バック」から出金させていただきます。

深見 和久 会員

自身の会社、ITCS の 21 期の決算が減収減益になりました。経常利益率 2% と不甲斐ない成績でした。コンチエクション！！と今期は増収増益、経常利益率 10% を目指し頑張ります。

村田 実樹 会員

宜しく願いいたします。

■ 幹事報告

菊池富士子副幹事より

- ・チャリティーゴルフについて

■ 会長挨拶

今や世界最高のピアノメーカーの一つとして知られるヤマハの物語は紀州藩生まれの流れ職人・山葉寅楠が浜松の小学校から鳴らなくなったオルガンの修理を頼まれたことから始まった。

当時浜松にはアメリカ製の高価なオルガンを修理できる者はおらず病院で西洋の医療機械の修理を行っていた山葉に白矢の矢が立った。

山葉は初めて見るオルガンの故の原因はすぐに探り当てたばかりかこう考えた。

「あれくらいのオルガンなら自分では 3 円くらいでできる自信がある」

舶来物が 45 円なら同じものを安く作れば商売に

なり国益にもかなうと直感した山葉は学校から部品の写し取りの許可を得るや飾り職人の河合喜三郎とともに見よう見まねで1台のオルガンをつくることに成功した。

しかし苦心の第1号は「体は成せども調律不備にして使用に耐えず」と酷評されるほど外見はともかく楽器として肝心の音程がでたらめだった。

困った山葉は30代の身で音楽学校に通って調律法を学び何とか合格品をつくり上げその勢いで1889年に山葉風琴製作所を設立洋楽器の国産化に乗り出すことになった。

山葉37歳の時である。

山葉のオルガンは内国勧業博覧会で出品中最高の賞を受賞わが国初の楽器の輸出を行うなど高い評価を得たもののオルガンよりはるかに製造が難しいピアノの国産化は簡単にはいかなかった。

1897年社名から氏姓をとり「日本楽器製造」に改めた山葉はピアノ製造のために渡米107日間をかけてピアノ会社と機械メーカーなど100社を訪問大量の部品や工作機械を買い込んでいる。1900年こうした取り組みが実を結び国産ピアノ第1号が完成。

1904年セントルイスで開かれた万国博覧会にピアノを出品して受賞1911年にはピアノ年間500台オルガン1万台を生産するなど日本楽器は日本一の楽器メーカーへと成長することとなった。一方で山葉は「ピアノをつくるには人間をつくってから」と見習生制度もスタート若く優秀な技術者の育成にも努めている。モノづくりと人づくりの両方を大切にされた結果ヤマハはやがて長い歴史を持つ西欧メーカーに負けないピアノを作ることが出来た。

見よう見まねで似た物を造るのは昨今では中国の専売特許になっていますがオルガンからピアノへヤマハのピアノは世界一になっています。

物づくりは日本人の心である。

物を造るにはまず人作りであるとすべての先人はおっしゃって見えます。

若い人の心をつかみ何とか世の為人の為になる様育てるのが私達にあてがわれた使命であると思っています。

そして昨年11月大型のMR Tが初飛行に成功しました。

まだ純国産とは言いがたくエンジン操縦部分の大半が輸入物であり胴体の羽根の部分位で今のまま大量生産しますと

大変な赤字になるそうです。

第一号機は何とか日本の飛行機と言う事で協力会社も赤字

覚悟で協力をしたそうですが今海外から調達している部分やエンジンを国内で作るとなると信用とコストダウンが付いて廻ります。

日本人の製作者は作って作れぬ物は無いと言っています

世界の信用は中々ついて来ないと言う事です。



■卓話

名誉会員 豊島 徳三様

ポール・ハリス氏について

日本のロータリー発祥について

ガバナーについて

現在の日本のロータリーについて

補助金について

VTTについて

卓話をさせていただきました。



以上